

No. 11

7月号

令和5年
2023・6・20



日立市視聴覚センター通信

みて、きいて、学びを楽しく

みきまた

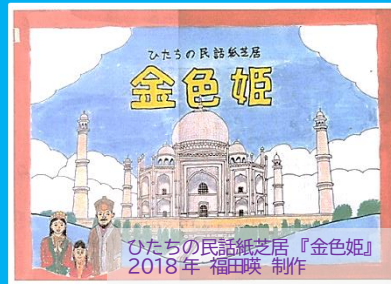
編集・発行
日立市視聴覚センター
〒317-0073
日立市幸町1-21-1
電話：0294-24-5055
FAX：0294-24-5066

参考資料:「ひたち物語—ひたちらしさの数々—」2021 日立市市長公室

2 金色姫伝説

特集

摩訶不思議 インドからのお姫様



昭和4年(1929) 奉納



小貝ヶ浜

茨城県内には、「常陸国三蚕神社」と

して蚕神社(つくば市)と蚕蓋神社(神栖市)に同様の伝説があります。金色姫が身につけていた宝石のような首飾りの赤い貝は、小貝ヶ浜に打ち上がる「サンショウガイ」とされています。また、これは「悪を除き、穢れを祓い、ネズミが避けるとされ、養蚕家はこの貝を蚕棚に飾った」と記されています。

日本の基幹産業として養蚕業は昭和中期まで盛んであったことから、県内外から多くの参拝者が訪れ、川尻の街は賑わったとのこと。



明治34年蚕養神社と改称 祭神は宇気母智の命 大正8年 稚産霊の命と事代主命を合祀しています



サンショウガイ

「金色姫伝説」とは、日立市川尻町にある養蚕の神様を祀る蚕蓋神社に伝わる伝説です。昔、常陸国の豊浦の湊(現在の小貝ヶ浜)に繭の形をした丸木舟が流れ着いたのを、この地に住む権太夫が見つめ、舟を割ってみると中から美しい姫が現れました。それから権太夫は姫を我が子のように育てましたが、やがて姫は亡くなり、亡骸が繭になりました。姫が亡くなる際に、養蚕の技術を伝え、念仏とともに昇天し、その後、養蚕はここから広まったと伝えられています。

最近の研究で、享和3年(1803年)に常陸国に漂着したとされる「虚舟伝説」との関係が見直され注目を集めています。

当センターには、「金色姫伝説」を知るためのオススメの3作品があります。それは①『川尻いまむかし』②『日立の文化財』③『日立のまち案内人が行く』part 2です。景勝地、夏の小貝ヶ浜を歩きながら金色姫に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

いわさきちひろ ~27歳の旅立ち~

公開：2012年
時間：96分 貸出番号：1201146

監督：海南友子 製作：向山正利
製作総指揮：山田洋次 ナレーター：加賀美幸子
出演者：黒柳徹子・高畑勲・松本善明・松本猛

前夫との死別、戦争、病など、55年の波乱の連続の中で、子どもの心の内面を描き続けた絵本作家・いわさきちひろ。27歳で画家として身を立てる決意をしてからその死まで、知人、関係者らの証言を基にその人生を追う感動作品。

今月の
オススメ
田中

